

小学校道徳科における評価についての研究

—学習状況と道徳性に係る成長の様子を見取る方法の提案—

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野 中根淳

1. 問題と目的

(1)道徳科の評価に対し教師が抱く困難さ

道徳科の評価について小学校学習指導要領では、「児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導の改善に生かすよう努める必要がある」(文部科学省, 2018)と規定されている。また、学習指導要領総則では、道徳科の評価について、「児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること」(文部科学省, 2018)と示されており、他者との比較ではなく児童一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、年間や学期にわたって児童がどれだけ成長したかという視点を大切にすることが示されている。

しかし、道徳科で養うことをねらいとする道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。そのため、一朝一夕に道徳性が養われた否かを判断することは難しい。道徳教育実施状況調査(文部科学省, 2022)の結果からも、道徳科の評価を行う上での課題として、調査を行った小学校の 55.2%で「児童の学習状況及び道徳性に係る成長の様子の把握」が挙げられており、多くの教師が、内面的資質である道徳性をどのように見取っていけばよいのか、困難さを抱いている現状が伺える。

(2)学習状況の捉え方とその見取り方

道徳性は道徳の授業だけでなく、他の教科も含めた学校教育全体で育てる資質・能力であるとともに、家庭教育の中で育まれる一面もある。

そのため、道徳科の授業だけで、児童の道徳性が育まれたかどうかを評価することはできないし、評価することは望ましくない。

毛内(2017)は「道徳に関する児童生徒の評価については、その内面を測ることの難しさから避けがちな傾向がある。しかし、児童生徒の内面に係る評価も、その学習状況などを手掛かりとして積極的に見届けていくよう努める必要がある」とし、学習状況を把握し積み上げていくことの重要性を述べている。また、西野(2017)は「道徳科の評価では、道徳性そのものは評価できないが、道徳性を養う学習活動にどのように取り組んでいるか、その学びの姿を捉えることは可能である。学びの姿の成長や進歩を見取ることによって、道徳性の育成に通じる道筋が充実していたかどうかを判断することができる」と指摘している。授業は道徳性を養うために行うが、指導の結果として、道徳性そのものの状態を把握するのではなく、道徳性を養うための学びがどうであったのか、児童の学習状況を把握することが必要であるといえる。

(3)研究の目的

学習状況の見取り方に関して、富岡(2015)の研究は示唆に富む。富岡は、中学生を対象とした道徳の授業において、市販のノートを道徳ノートとして活用し、授業の終末に、毎時間学んだことや感想などを生徒に書かせ、学習感想から生徒の学習状況を見取ることの有用性を述べている。反面、考えを文章にまとめることが難しい生徒に対しては、記述をもとにした学習状況を見取ることの難しさを課題として挙げている。そのため、文章で自分の考えを書き表すことの経験が少ない小学校低学年において

は、学習感想などの記述をもとに児童の学習状況を見取り評価する実践は少ない。

小学校低学年での学習状況を見取る研究として、大藏(2019)は、他教科と関連づけた道徳科の授業実践から児童の学習状況を把握する方法を提案している。しかし、一つの内容項目を評価するために教育課程を編成するこの方法は、普段の授業において児童の学習状況を見取る方法としては教師の負担が大きい。

そこで、本研究では、小学校低学年において児童の学習状況を普段の授業で見取るための手立てと工夫について考察し、その有用性の検証を目的とする。

2. 研究の方法

(1)授業実践について

①対象校・児童・実施日

山梨県公立A小学校 1年生 28名

2023年10月26日(1時間)

山梨県公立B小学校 1年生 19名

2023年11月7日(1時間)

2023年11月21日(1時間)

②授業実践の記録

表1 授業実践を行った教材

実践Ⅰ(10/26,11/7)		
主題名	相手を思いやって B-(6)親切、思いやり	
教材名	『くりのみ』(教育出版「小学道徳①はばたこう明日へ」)	
ねらい		
	きつねとうさぎの行動について、考えることをとおして、自分だけでなく友達の立場にも気づき、互いに助け合おうとする心情を育てる。	
実践Ⅱ(11/21)		
主題名	みんなの役にたちたい C-(12)勤労、公共の精神	
教材名	『こくばんとうばん』(教育出版「小学道徳①はばたこう明日へ」)	
ねらい	「わたし」の迷いや行動について考えることをとおして、責任をもって働くことのよさに気づき、自分もすすんで働くとする実践意欲と態度を育てる。	

(2)質問紙調査について

教師が、道徳科の授業を行う際に、児童の学習状況をどのように見取っているのか、また学習状況を見取る上で課題点や疑問点について調査する。

- ・調査対象：山梨県内小学校教師

- ・調査時期：2023年11月
- ・調査方法：調査票(紙)の配布による質問紙調査
- ・調査内容：表2の通り、調査項目1については、選択肢の中から一番重きをおいているもの1つを選んで回答してもらった。また、調査項目2, 3については記述式での回答とした。

表2 質問紙の調査内容

項目	調査内容
1	日常の道徳科の授業において、どのような方法で児童の学習状況を見取っていますか。(一番重きを置いているもの一つを選んでください) ①授業での児童の発言やつぶやき ②ワークシートの学習履歴 ③一枚ポートフォリオ、道徳ノートなどの学習感想 ④児童の自己評価 ⑤その他
2	設問1で選んだ方法で児童の学習状況を見取る良さはどんなところですか。
3	設問1で選んだ方法で児童の学習状況を見取る際に課題と感じるところはどんなところですか。

3. 実践の概要

(1)児童の学習状況(記述)を見取り蓄積するための手立て

①吹き出しを用いた問い合わせの工夫

本実践では、一時間に一枚のワークシートをもとに、児童の記述を見取り、蓄積する。

道徳科の授業で扱う教材によっては、複数の人物が登場するものがあり、それぞれの立場について気持ちや考えを思考させる学習の展開がある。また、問い合わせによっては、登場人物の気持ちを聞く場面と、児童の考えを聞く場面が一時間の授業の中で混在する場合もある。そのため、低学年の児童が、教師の発問の意図を正しく理解できず困惑し、ワークシートに自分の考えを記述できないことが多くあった。

そこで、ワークシートに児童の考えを記述させる際に、登場人物のイラストに吹き出しをつけ、自己を投影する人物を明確にし、教師の発問の意図が児童に正しく伝わるようにした。また、ワークシートの問い合わせについて、「Aさんの気持ちをかきましょう」ではなく、「あなたがAさんなら、どんなことをお話しするかな」のように、小学校1年生の発達段階に合わせ、口語で記述させるよう工夫することで児童の考えが表出しやすいようにした。作成したワークシ

ートを図1に示す。発問の意図を明確にし、登場人物に自我関与させて道徳的価値について考えを深めさせることをねらいとした。

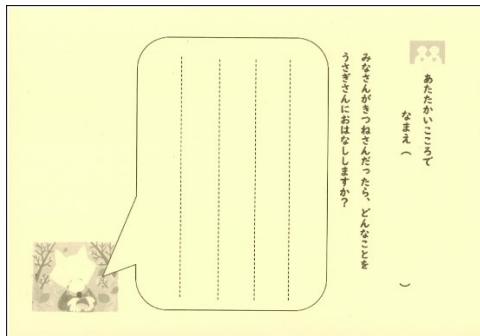


図1 実践Iで使用したワークシート(表)

②ワークシートに学習感想欄を設ける工夫

学習感想から児童の学習状況を見取ることの有用性は様々な先行研究で示されている。そこで、ワークシートの裏面に学習感想欄を設けることで、低学年児童にとって十分な量の記述欄を確保した。表面のワークシートの学習記述と合わせて、児童が自己の生き方について考えを深めているか捉えることをねらいとした。

また、道徳の内容項目に関する4つの視点に合わせて、授業で用いるワークシートを4色に色分けした。色は、使用している教科書の視点区分の色分けに準じ「A主として自分自身に関すること」を赤色、「B主として人との関わりに関すること」を黄色、「C主として集団や社会との関わりに関すること」を青色、「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を緑色とした。

ワークシートをポートフォリオとして蓄積したものを教師が見直す際に、内容項目を意識したおおくくりなまとまりで児童の学習状況を見取ることをねらいとした。

③自己評価の活用

道徳の授業における自己評価の活用について富岡(2018)は、「自分自身を客観的に見つめる自己評価は道徳的な成長を促す可能性があり、これを道徳の時間に取り入れていくことには大きな意義がある」と述べている。そこで、道

徳科の目標で示されている学習活動をもとに低学年の児童に合わせた自己評価項目を三件法で作成し、ワークシートに組み合わせた(図2)。そして、授業の終末に児童が自分の学びについて自己評価する活動を設定した。自己評価から児童の学びの様子を見取るとともに教師の指導について、振り返りとして活用した。

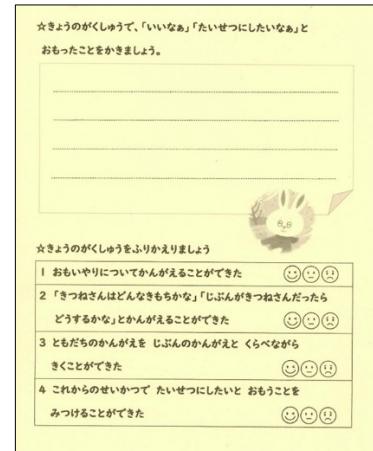


図2 実践Iで使用したワークシート(裏)

(2)児童の学習状況(発言)を見取り蓄積するための手立て

授業中の児童の発言を記録する方法として、ICレコーダーを用いて授業後にプロトコルを作成したり、座席表を用いて児童の発言を記録したりと研究授業では様々な方法を用いるが、毎回の授業において、授業者が一人でそれらの方法を実施することは難しい。

そこで、授業での児童の発言については、黒板に板書をする際に児童名を合わせて記入することで発言を記録として残した。さらに、板書の写真は、エピソード記録シートに発展させて蓄積していく。エピソード記録シートは図3に示す通り、授業エピソードと生活エピソードを合わせて記録するために作成したシートである。授業エピソードには、授業中の発言の記録である板書の写真とペアでの学習の様子や、ワークシートの記述の様子など授業内での学びの記録を合わせて残す。生活エピソードについては、授業に関する内容について、学校生活の中での児童の言動の記録を残していく。加藤

(2017)は「道徳の授業外での子どもたちの変容について、道徳の授業がきっかけとなってよりよく生きようとする前向きな姿が見られたかどうかを見取ることは必要である」と述べ、道徳の授業以外の実生活における経験を得た上での育ちを見取ることの重要性を示している。エピソード記録シートを作成することで、児童の学習状況と児童の日常での成長の様子の二つの面を合わせて一枚のシートに蓄積することをねらいとした。

エピソード記録シート		
学年	授業日	教材名
観点区分	内容項目	
<p>「授業エピソード」 授業中の発言の記録 (板書写真)</p>		
<p>「授業エピソード」 授業内での学びの記録 (つぶやき、ペアでの活動の様子、ワークシートの記述など)</p>		
<p>「生活エピソード」 授業に関する内容について、学校生活の中での児童の言動の記録</p>		

図3 エピソード記録シート

4. 結果と考察

(1) 児童の学習状況(記述)を見取り蓄積するための手立てについて

①吹き出しを用いた問い合わせの工夫

授業実践Ⅰの後に、ワークシートの児童の記述について分析を行った。表3は児童のワークシートの記述を本時のねらいと照らし合わせ分類したものである。

表3 実践Ⅰにおけるワークシート記述の分類

ねらいを達成した学習状況	記述の分類	人数 (n=42)
十分見取れた	自分だけでなく相手の立場を考えた思いやりの記述がある	25
十分見取ることができなかつた	相手にうそをついたことに対する謝罪のみの記述	8
	相手がくりをくれたことに対する感謝のみの記述	6
	相手の立場を考えていない記述	3
	無回答	0

この授業で扱った教材では、登場人物であるきつねとうさぎのそれぞれの立場や気持ちについて考えさせる授業展開となつたため、低学年の児童にとっては自我関与する人物を入れ替わる難しい内容であった。しかし、図4の児童Aのように、「うさぎさんありがとう。ぼくはひとりじめしてごめんね。あっちにどんぐりがあるよ。いしょにたべよう。」と、本時のねらいを達成した学習の様子をワークシートの記述から見取ることができた。これは、ワークシートの問い合わせを工夫し自己を投影する人物を明確にしたことで、教師の発問の意図が明確化されたためであると考えることができる。

また、ねらいを十分達成できなかつた児童についても、表3で示す通り、発問から大きくはずれた記述は少なかつた。さらに、発問の意図がわからず記述ができない児童はいなかつた。そのため、児童の学習状況を分析することで教師が授業の展開について振り返りを行う際に、児童のワークシートの記述が大いに役立つた。

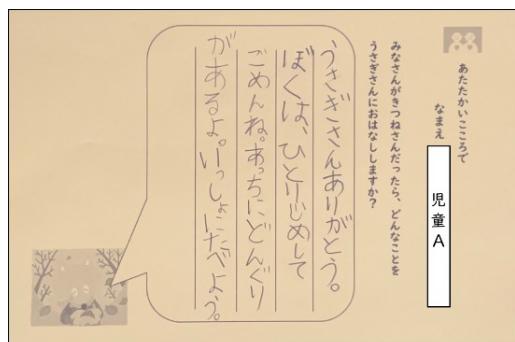


図4 児童Aのワークシートの記述

②学習感想の児童の記述から

ワークシートに設けた学習感想の問い合わせについては、先行研究などを基にし、小学校低学年の発達段階に合わせて、「今日の学習で「いいなあ」「大切にしたいなあ」と思ったことを書きましょう」とした。低学年ということで、学習感想を書くという活動に慣れていないこともあり、自分の考えを書くことに戸惑う姿も見られた。

実践Ⅰ、Ⅱの中で特に変容が見られた児童Bの記述について分析を行った。児童Bの実践Ⅰにおける学習感想を図5に示す。

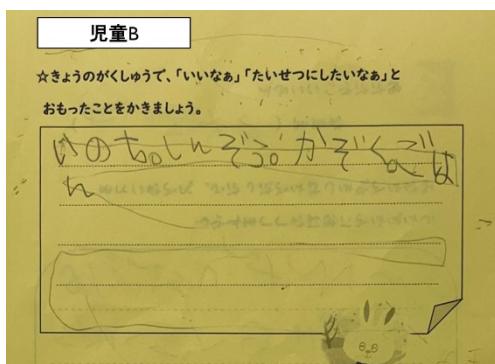


図5 児童Bの学習感想の記述（実践Ⅰ）

第1時ということもあり、学習感想の問い合わせにある「いいな」「たいせつにしたいな」の抽象的な表現に悩み、児童Bは学習感想を書くことに戸惑う様子がみられた。児童Bは、問い合わせにある「大切にしたい」という言葉から思考し、授業の内容から離れ「いのち。しんぞう。かぞく。ごはん」と自己の中で大切だと考えているものを記述したと推察される。実践Ⅰでは、児童Bのように、学習感想の記述から道徳的価値について、授業を通して深めているかを見取ることができなかつた児童がいた。

そこで、実践Ⅱでは、学習感想の問い合わせについて抽象的な表現を見直し、「今日の学習から「大切にしたいなあ」「これから頑張りたいなあ」と思ったことを書きましょう」と道徳的実践意欲を問う内容に変更をした。児童Bの実践Ⅱにおける学習感想を図6に示す。

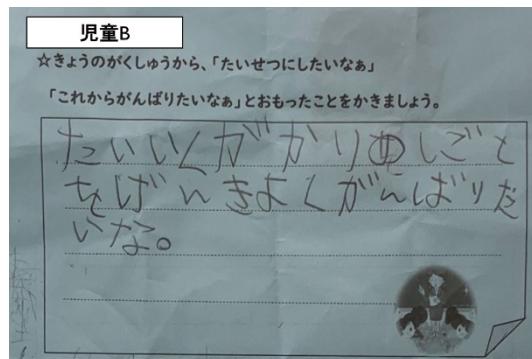


図6 児童Bの学習感想の記述（実践Ⅱ）

第1時では、学習感想の記述に戸惑っていた児童Bも、「たいいくがかりのしごとをげんきよくがんばりたいな。」とワークシートにすらすらと書く様子が観察できた。「みんなのためにするんで働く」という授業での道徳的価値を、自分の係の仕事と関連して考え実践していくという意欲を、児童Bの記述から見取ることができた。学習感想の記述から、低学年児童においても、自分自身との関わりの中で考えを深めることができているか見取ることができ、学習感想から道徳性を養うための学びがどうであったのかを把握することができた。

道徳の内容項目に関する4つの視点に合わせて、授業で用いるワークシートを4色に色分けする工夫を行った。しかし、実践Ⅰと実践Ⅱで視点区分が異なっていたため、おおくくりなまとまりの中でワークシートを比較し、児童が自分の意識や考えを広げたり深めたりしているか、今回の実践からは考察することはできなかつた。次年度、長期的に実践を行う中で、ワークシートをポートフォリオとして蓄積していき、ワークシートを色分けする工夫についての有用性について検証を行いたい。

③自己評価の分析から

前述のとおり、低学年児童に合わせた自己評価項目を三件法で作成し、ワークシートに組み合わせ、授業の最後に児童が自分の学びについて自己評価する活動を設定した。実践Ⅰでは、授業の終末に児童が自分の学びについて自己評価を行つた。集計した結果を表4に示す。

表4 実践Iにおける自己評価の結果

自己評価項目	人数 (n=42)			
	笑顔	やや笑顔	やや不笑顔	不笑顔
1 思いやについて考えることができた	38	3	0	1
2 「きつねさんはどんな気持ちかな」「自分がきつねさんだったらどうするかな」と考えることができた	30	9	2	1
3 友達の考えを自分の考えと比べながら聞くことができた	30	9	3	0
4 これからの生活で大切にしたいと思うことを見つけることができた	38	4	0	0

全ての児童が、選択肢の一番評価が高いところを選ぶ結果となった。自己評価の3つの選択肢を顔マークに変えて示したことが、児童の正しい自己評価を妨げてしまったのではないかと推測される。また、自己評価をしている児童の様子を観察していると、迷うことなく選択肢を選んでいた。全ての項目を評価させたことで、一つ一つの項目について児童が自分の学習を想起しながら、丁寧に振り返りを行う機会を奪ってしまったのではないかと思われる。その結果、実践Iにおいては、自身の学びについて自己評価を活用することで客観的に振り返りを行わせることができなかつた。

そこで、自己評価の方法について見直しを行った。まず、顔マークによる選択式の三件法をやめ、自己評価項目の中から、学習の中で一番頑張ったと思う項目に印をつける方法に変更した。印をつける数を1つに限定することで、自分の学びについて丁寧な振り返りを促すことをねらいとした。改良した自己評価を図7に示す。

☆きょうのがくしゅうで、いちばんがんばったことに○をつけましょう。	
1 みんなのためにはたらくことについて かんがえることができた	
2 「みのりさんはどんな気持ちかな」 「じぶんだったらどうかな」とかんがえることができた	
3 ともだちのかんがえを じぶんのかんがえと くらべながら きくことができた	
4 これからのせいかつで たいせつにしたいと おもうことを みつけることができた	

図7 改良した自己評価

実践IIでは、前回の反省を踏まえ、改良した自己評価を用いて学習の振り返りを行った。集計した結果を表5に示す。

表5 実践IIにおける自己評価の結果

自己評価項目	人数 (n=17)			
	笑顔	やや笑顔	やや不笑顔	不笑顔
1 皆のために働くことについて考えることができた	7			
2 「みのりさんはどんな気持ちかな」「自分だったらどうかな」と考えることができた	2			
3 友達の考えを自分の考えと比べながら聞くことができた	4			
4 これからの生活で大切にしたいと思うことを見つけることができた	4			

印をつける場所を一つに限定したことで、実践Iの授業時とは異なり、自分の学習状況を想起しながら時間をかけて自己評価に取り組む児童の姿がみられた。

結果を集計すると、自己をみつめることに関する2の項目を選んだ児童が少なかった。役割演技を取り入れるなど低学年の児童に応じた指導方法を工夫することで、主人公の気持ちについてさらに考えることができたのではないかと、児童の自己評価から教師が授業を見直す際の視点となった。また、友達の考えと自分の考えを比べて聞くという3の項目は、低学年児童においては難しい内容だったので、授業後に3の項目を選んだ児童にインタビューを行った。すると、「黒板がきれいになると心がきれいになるというのがすごいと思ったから3を選んだ」と授業中の友達の発言を具体的に挙げ、根拠を持って自己評価活動を行っていることがわかった。

低学年児童においても、自己評価項目を用いて自分の学習状況について振り返りができおり、自己評価を活用することは有効だと思われる。

(2)児童の学習状況(発言)を見取り蓄積するための手立てについて:エピソード記録シートの作成と分析から

実践IIを終えて作成したエピソード記録シートを図8に示す。一番上が教材名、内容項目などの授業の記録。そして、その下に、授業エピソードとして、板書写真を活用した児童の発言の記録と授業内での児童の学びの記録としてワークシートの振り返りの記述を記録した。児童Cは授業中の発言で、働くことの良さについて「みんなが喜んでくれてうれしいから」と

述べていた。学びの記録としての学習感想では、「学校の中で自分ができることが増えるよう頑張っていきたい」と自己の生き方について考えを深めていることを記述から見取ることができた。授業を通して児童が自己を見つめる姿を、発言と記述の両面から学びの記録として蓄積することができた。

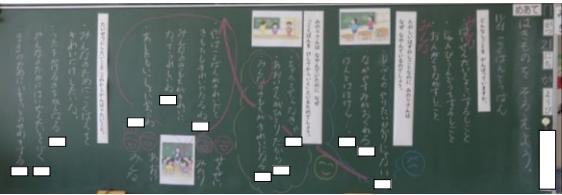
エピソード記録シート			
学年 1年	授業日 11月21日(火)	教材名 こくばんとうばん	
視点区分C 主として集団や社会との関わりに関すること	内容項目 勤労・公共の精神		
			
授業エピソード (ワークシート振り返り) <ul style="list-style-type: none"> 学校のこと、自分ができることが増えるようにがんばっていきたい。 <input type="checkbox"/> 配膳台をみんなのためにピカピカにしたい。 <input type="checkbox"/> 体育係のたいそうの仕事を元気よく頑張りたい。 <input type="checkbox"/> 自分からおふろ掃除をこれからはしたい。 <input type="checkbox"/> みんなのために黒板を消すことこれからも頑張りたい。 <input type="checkbox"/> おかあさんのために、家でたくさんお手伝いをしたい。 <input type="checkbox"/> 準備体操を間違えずにしっかりやりたい。 <input type="checkbox"/> 			
生活エピソード <ul style="list-style-type: none"> 時間になら言われなくても給食係の仕事を始め、重いお盆のかごも落とさないようにしっかり持って運んでいる。 <input type="checkbox"/> 先生が来る前に、かごの中の配付物を配ってくれた。 <input type="checkbox"/> 給食の片づけ中にこぼれた汁を、ティッシュで拭いてきれいにした。 <input type="checkbox"/> 黒板を消していないことに気づき、自分の曜日ではないが消してくれた。 <input type="checkbox"/> 掃除の時間、流しの汚れている排水溝をピカピカに磨いてくれた。 <input type="checkbox"/> 			

図8 実践Ⅱで作成したエピソード記録シート

生活エピソードについては、授業後の、学校生活での児童の様子の記録を学級担任に依頼した。「時間になら言われなくても給食係の仕事を始め、重いお盆のかごも落とさないようにしっかり持って運んでいる」「黒板を消していないことに気づき、自分の曜日ではないが消してくれた」「掃除の時間流しの汚れている排水溝をピカピカに磨いてくれた」などエピソード記録シートを活用することで、授業での児童の学びの姿が明確になり、道徳の授業をきっかけとして、日常生活の中で、よりよく生きようとする児童の前向きな姿を教師が意識的に見取ることにつながったと思われる。

エピソード記録シートに児童の学びの様子、成長の様子を記録し積み上げていくことによって、おおくくりなまとまりでの児童の道徳性

に係る成長の様子を見取ることにつながると考えられる。

(3) 道徳の評価に関するアンケート調査から

11月17日に県内の小学校で行われた道徳科の公開授業研究会に参加した教員に質問紙による調査を依頼し、57名から回答を得た。

質問内容については、日常の道徳科の授業においてどのような方法に重きをおいて児童の学習状況を見取っているか。またその方法で児童の学習状況を見取る際の良さと課題点について考えていることを記述で回答してもらった。

図9に示す通り、道徳科の授業において学習状況を見取る方法として、42%がワークシートの記述に重きを置き、次いで児童の発言やつぶやきからの見取りが35%という結果になった。児童の自己評価については2%となり、自己評価による児童の学習状況の見取りについては、ほとんど活用がされていないことがわかった。

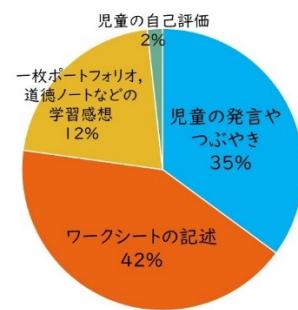


図9 日常の道徳科の授業において学習状況を見取る際に重きを置いている方法の集計結果(n=57)

児童の学習状況を見取る際の利点についての回答を表6に示す。ワークシートの良さとしては、「ワークシートは児童の学習状況が記録としてのこるので、授業後に分析できる」「発言が苦手な児童もワークシートへの記述であれば、自分の考えを表すことができる」といった回答が多かった。発言やつぶやきによる学習状況の見取りの良さについては、「特別な準備を必要とせず毎時間行うことができる」「教師の問い合わせにより児童の考えをさらに引き

出すことができる」などが挙げられていた。学習状況を見取る方法としては、記録に残り毎時間手軽に行うことができる方法が、普段の授業の中で評価を積み重ねていく際に求められていた。

表6 学習状況を見取る際の良さ

学習状況を見取る方法	学習状況を見取る際の良さ
ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> 授業後に学習の様子を分析することができる。 記録として残り、変容がわかる。 発言が苦手な児童もワークシートに自分の考えを表現することができる。
児童の発言やつぶやき	<ul style="list-style-type: none"> つぶやきに児童の本音が表れる。 特別な準備もいらず、毎時間行うことができる。 問い合わせことで、さらに考えを引き出すことができる。

また、学習状況を見取る際の課題点として挙げられた回答を表7に示す。ワークシートから学習状況を見取る際には、「質問と内容がずれてしまい正しい学習の様子が見取れないこと」「無回答になってしまふこと」などが課題として挙げられていた。また、児童の発言やつぶやきによる学習状況の見取りについては、「児童の発言を日常の取り組みの中でどのように記録に残すか」が挙げられていた。ワークシートが抱える課題については、今回手立てとして講じた、吹き出しによる問い合わせの工夫と学習感想の工夫が一助となり、発言を記録していくことには、板書を活用したエピソード記録シートの手立てを活用することで課題を解決することにつながっていくと思われる。

表7 学習状況を見取る際の課題点

学習状況を見取る方法	学習状況を見取る際に課題と感じること
ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> 何を書いていいかわからず空白になってしまふ児童がいる。 問い合わせの内容が大きくずれている児童は正しい学習の様子が見取れない。 書くことに苦手意識のある児童の見取りができない。
児童の発言やつぶやき	<ul style="list-style-type: none"> 発言を全て記録することが難しい。 発言を記憶するには限度がある。 発言をしない児童の学習状況は見取れない。

5. 考察および今後の課題

今回の実践における成果の1つ目は、ワークシートを工夫することで、問い合わせが明確になり、無回答や発問から大きくずれる記述が減り、記述から児童の学習状況を把握することができ

たことである。2つ目は、低学年児童においても自己評価を活用し、自身の学習を客観的に振り返ることができていることがわかった。また、自己評価を分析することで教師の指導を改善することができたことである。3つ目は、板書を活用したエピソード記録シートを作成することで、授業での学びの姿が明確になり、道徳の授業をきっかけとして、日常生活の中で児童の前向きな姿を見取ることにつながったことである。

今後の課題としては、今年度の実践は限られた時間の中での短時間での検証であったため、長期的に学習状況を把握していくなかで、評価方法の有用性を検証していく必要があると考える。また、蓄積した学習状況をどのように組み合わせて、児童の道徳性に係る成長の様子を見取っていくのかが課題として挙げられる。次年度の研究課題として実践を行なながら、粘り強く検証をしていきたい。

引用文献

- ・加藤宣行 (2017) 『子どもに寄り添う道徳の評価』光文書院
- ・文部科学省 (2018) 平成29年小学校学習指要領解説特別の教科道徳編
- ・文部科学省 (2022) 令和3年度道徳教育実施状況調査
- ・毛内嘉威 (2017) 児童生徒の評価と教師の指導の評価、永田繁雄 (編) 『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所, pp.50-51
- ・西野真由美 (2017) 学習状況の評価、永田繁雄 (編) 『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所, pp.40-41
- ・大藏純子 (2019) 「低学年における道徳授業の評価の在り方 - 授業の質的転換を図り、学びのプロセスが見える評価 - 」『岐阜大学教職大学院紀要』2, pp.73-82
- ・富岡栄 (2015) 「道徳の時間の評価に関する実践的研究-教科化に向けての取り組み-」『道徳と教育』333, pp.81-92
- ・富岡栄 (2018) 『道徳科授業づくりと評価の20講義』明治図書